虚子記念文学館投句特選句・令和八年九月

稲畑廣太郎　選

木犀の金の雫をこぼす雨　兵庫　大西美知子

秋燈をグラスに隅のカウンター　兵庫　小林志乃

字足らずのままに邯鄲昏れゆけり　大阪　押見げばげば

わが頬に月の翼の及びけり　神奈川　進藤剛至

存在は風のため息女郎花　兵庫　玉手のり子

湯煙を噴いて地獄の夜長かな　岡山　辻田詔子

赤とんぼ砂場の城はそのままに　三重　瀬川琴女

秋団扇静かに語り出す記憶　三重　池本準一

新涼や円陣を組む舞台袖　兵庫　武田奈々

名残惜し高校生活揚花火　兵庫　藤丸慎士

（青少年）

入選句・令和八年九月

秋灯や一灯ごとにある暮し　京都　西村やすし
秋の灯に透かされ本音洩らしけり　大阪　須知香代子
萩の波掻き分けて来る君若し　京都　前　悦子
居ぬ部屋を灯し一人の秋灯下　兵庫　池田文子
葡萄食ぶ丸い心になれるやう　大阪　河辺さち子
露草へ億年宿すひかりかな　京都　杉森大輔
期限切れ団子頬張る月夜かな　埼玉　小田毬藻
日没に手を振るごとき案山子かな　千葉　鹿野川小舟
師の庭に鍵掛かりをり秋の雨　岡山　伴　明子
雨しづく宿し秋声翳る館　兵庫　奥田好子
竜胆の紫低く暮れ残る　兵庫　足立朱麻
根釣より戻りし父の上機嫌　大阪　山田佳音
縄暖簾夜長を友と楽しまむ　石川　辰巳昌彦
奥津城や息整へば法師蟬　香川　藤田敦雄
九月来て山影動く濃く淡く　兵庫　平田　惠
秋の灯の近くに見えて遠からむ　大阪　奥野千草
舞ひ上がる気持が颱風蹴散らして　神奈川　舩山美貴
雨に幹生き生きと立つ竹の春　香川　三好ようこ
芦屋浜霧に余情のかかりけり　大阪　谷本房子
露けしや一木一草館愛し　大阪　林　曜子
爽やかに傘差し掛けて来たる人　三重　松村咲子
秋灯下忘れものをしたやうな　東京　大月浩子
軽やかにコンバインゆく白露かな　三重　中島庸子
橋影の芯は真つ直ぐ秋の潮　大阪　白石　翠

留学を送るデッキや秋の風　滋賀　尾﨑恵子
気になりしマジックナンバー穴まどひ　兵庫　谷本逸歩
遺句集に甦る声秋灯下　兵庫　森岡喜惠子
古民家の土間の暗きに秋暑解く　奈良　山口廣世
子等よりもちやうちん数多地蔵盆　大阪　立入宮子
爽やかやピアノ流るる古都の路地　奈良　堀田ますみ
光年の宙まで刺さる稲光　兵庫　吉田知子
爽やかに綺羅を磨きて朝の海　兵庫　川村ひろみ
秋水を湛へダム湖の青深し　大阪　米澤悦子
始まりしぼやき舌打ちきりぎりす　大阪　若林友子
爽やかや勝者敗者の抱き合ひ　奈良　堀田建夫
敬老日も励む高齢ガードマン　大阪　吉井清子
巡礼の道爽やかな雨後の朝　兵庫　村原美可
シャンソンをこなし根釣の岩に佇つ　大阪　田邉育子
爽やかやマジック点灯タイガース　兵庫　伊東伸子
刈草の芳し闇や虫集く　兵庫　髙野さち
雨上がり風さはやかに虚子館　兵庫　黒田千賀子
古代史の謎の深さよ秋灯下　大阪　北上美佐子
峰寺の風を狭めて萩の磴　兵庫　山之口倫子
お台場のタワマン掠め秋燕　兵庫　上岡あきら
爽やかや雨後に輝くもの数多　大阪　ふじもと言果
さやけしや自分捜しの山暮し　兵庫　宮本露子
蜩や友偲ぶ歩になつてをり　大阪　杉山千恵子
爽やかに「聴き逃し」から親しき名　兵庫　小林昌子
萩束ねともと偲ばん雅かずさん　鳥取　前田　千

文明も自然も沈む秋出水　千葉　野末トヨ
新涼や遠会釈して過ぐ神社　兵庫　岸川佐江
颱風の端の零してゆく日照雨　岡山　石井宏幸
地震多き日本列島一葉落つ　兵庫　涌羅由美
ありのまま光に溶くる秋の蝶　兵庫　河野ひろみ
八朔や奉燈ゆるる人ゆるる　香川　葛原由起
清らかに水を磨きて鮭のぼる　兵庫　藤丸千香子
八朔や白無垢の遊女の憂ひ　大阪　西尾浩子
蚯蚓鳴く戦止むまで鳴く蚯蚓　石川　白根寿子
この川の命の糧や鮭のぼる　兵庫　中村恵美
露の世の納骨といふ節目かな　京都　山﨑貴子
身だしなみ鏡に正す九月かな　大阪　河村久美子
仲秋の句縁の深き山河かな　兵庫　辻　桂湖
台風の逆走せるや芋嵐　徳島　多田まさ子
颱風の迷走先に待つ憂ひ　兵庫　深尾真理子
遺跡野をさ迷うてをり草蜉蝣　大阪　多田羅紀子
上品に西瓜を食ぶとは難しく　石川　辰巳葉流
病院へ信号三つ鰯雲　茨城　杉山　滿
秋出水孤立の村にドローン飛ぶ　石川　杉村佳津子
町一つ呑まれゆく闇八月尽　三重　水越晴子
夕暮れや牛の睫毛に光る露　岐阜　丸山美樹
鉦たたき堂の底より微笑仏　大阪　椋本望生
落葉だけゆらして蜘蛛の不在の巣　熊本　夏風かをる
秋の水揺れて翳ある昼間かな　千葉　志村　肇
可愛くもいと恐ろしき浮塵子かな　愛知　海神瑠珂

真夜中の路地に猫の眼初月夜　東京　清水あき
しあはせのみづとふ実り獺祭忌　兵庫　杉浦萌芽
毅然たる立ち居の女や濃竜胆　兵庫　高橋純子
赤き花一つ揺れたり萩の雨　兵庫　辻田あづき
蓑虫のついた葉を持ち忍び足　愛知　上手智子
旅はまた旅へとつづき鰯雲　兵庫　藤井啓子
揺るるもの風に応へて爽やかに　兵庫　吉村玲子
鳶の輪の高く小さく秋の空　鳥取　椋　則子
また一人友旅立ちぬ秋の雷　兵庫　松本　敬
一筒は残り一枚大夕焼　富山　三河三可
逆上がりしてみたくなる鰯雲　兵庫　高市敦之
定刻に帰る事務員月夜茸　兵庫　風待ラテ
人と居て人を忘れて星月夜　兵庫　松浦百重
闇よりも濃き木犀の香の溢れ　兵庫　三木雅子
霧晴れてやつと摩周湖青くなる　兵庫　山口弘子
霧晴れて湖面飛び立つ水上機　兵庫　山﨑渺美
霧はれて遠のく城址見えにけり　兵庫　山岸正子
霧晴れて夜景煌めく街神戸　兵庫　金田八江子
珈琲の膨らむ朝よ秋うらら　兵庫　福田光博
一歩だけ少し勇気の盆踊　兵庫　天下明太郎
一粒の葡萄ぽろりと房ゆるぶ　埼玉　吉田春代
秋寒や水に沈みし通学路　埼玉　蓑崎りん
萩乱す風に心の襞深む　兵庫　槌橋眞美
傷つくこと平気で言うね夕紅葉　京都　草夕感じ
合戦のありしは昔葛の谿　兵庫　岩水ひとみ

平成も少し遠のく秋彼岸　兵庫　伊集院秀樹

旅果てて葦耳付けて来し鞄　滋賀　近江菫花

月今宵あすは帰路への旅枕　兵庫　岩永靜代

いつか出る期待のありて無月かな　兵庫　春の新々

秋の蝉女神に背を向けた紳士　静岡　いたまき芯

高速艇乗り込み揺れる島の秋　大阪　深森佳鶴

セルビアの菊は薬研の使途なれや　大阪　富永武司

初秋に手持無沙汰の車窓かな　大阪　深森明鶴

睨むだけの案山子攀る雀かな　和歌山　中島紀生

誠実に死を見つめをり秋の蜂　大阪　森重深鶴

ぼんぼりの灯りて路地に酔芙蓉　神奈川　平野孤舟

常の菜常の器に新米哉　大阪　坂口うらら

成仏の証と見るも曼珠沙華　兵庫　惠島祥一朗

雨の中佇む先の彼岸花　兵庫　惠島京子

モルダウの塔に名月旅の果て　神奈川　小林　心

重陽や二杯半ほどウヰスキー　奈良　豚々舎休庵

学食のアルミの皿に初秋刀魚　兵庫　太平楽太郎

長びける牧師の不在草の花　兵庫　キートスばんじょうし

蟷螂に目がないといふ大女優　熊本　貴田雄介

２０２６／令和８年０９月